

## \* 研究目的

我々の記憶は、定着させる上で良質の睡眠が大変重要である。さらには恐怖記憶など忘れた方がよい記憶は、良質な睡眠により忘却される。一方、現代社会において、睡眠の質の劣化や量の減少が指摘されている。1960年から2005年までの日本人の睡眠傾向の調査結果では、平日の就床時刻は、小学生で60分、高校生で80分、40歳代で90分遅くなっている。すなわち、低年齢層を含めた日本人の生活の夜型化が進んでいる。また、実質の睡眠時間をみても1時間近くも減少している。そのため、現代日本人は、ヒトが本来持っている学習能力を十分に引き出せなくなっている。そこで、幼児を対象とし、睡眠に関わる生活習慣を網羅的なアンケート調査および行動学的観察を行い、学力との相関を分析し、これによって、睡眠に関わる生活習慣のどの因子が子どもの学力に影響するのかを明らかにすることを目的とする。

## \* 研究チームメンバーと研究課題

前田多章	甲南大学知能情報学部知能情報学科 准教授	学習効率に影響する睡眠要素のモデル化, 睡眠要素と学習効率の相関の行動学的分析
松本茂樹	甲南大学知能情報学部知能情報学科 教授	乳幼児の学習効率分析・評価, および, 乳児期の数学教育モデルの構築
堀内清光	甲南大学理工学部機能分子科学科 准教授	睡眠要素と学習効率の相関の統計的分析, および, 乳児期の数学教育モデルの構築
山ノ内慎一	山ノ内和漢薬研究所 所長	対象ライフステージの観点からの行動分析および睡眠評価, および, 乳幼児における日常活動の活動量分析
綾森素子	(有)幼児未来教育 代表取締役社長	乳幼児の学習効率分析・評価, および, 乳児期の数学教育モデルの実践研究